

令和5年度 第1回熊本市小中一貫教育懇談会議事録

日時：令和5年(2023年)7月24日(月)
14:00~15:30

場所：SPring 熊本花畑町 7FD

○議事録

- 1 開会
- 2 教育委員会事務局挨拶(田口教育次長)
- 3 関係者紹介(自己紹介)
- 4 座長について
- 5 議事 協議 本市の小中一貫教育の取組について
 - (1) 座長より 小中一貫教育懇談会の目的について
 - (2) 事務局説明 本市の小中一貫教育について
 - (3) 意見交換

| | |
|------|---|
| 岡村座長 | 私や事務局の説明について確認等があれば、ご質問をお願いします。 この後、小中一貫教育についてどのような実践を行っているか紹介していただきたい。 |
| 榎木委員 | 天明校区は令和8年度末に5校が閉校して義務教育学校になるということで小中一貫教育に対する先生方の意識が違う。小中一貫校として取り組んだことはすべてを同じ方向にするということである。まず校長会で学校教育目標を一つにした。また、月1回開催の5校の教職員が全員参加する小中合同会議で子どもたちに身につけさせたい資質・能力を共有した。子どもたちの姿で達成度を評価するためにアンケートを作成し、その質問項目を先生方で考え、7月にそのアンケートを実施した。各校で取り組む方法は異なるがゴールは同じである。特色としてはSDGsを柱とした探究的な学びを行い、学び方を身につけることであり、9年間一貫した指導を行っている。義務教育学校のメリットは先生方が義務教育の入口と出口の子どもを間近に見ることで先生方の意識がそろっていくことであり、それを期待している。また、現在は教科によって先生方の授業時間数に差があるが、義務教育学校になると先生方の授業時間数が平準化されることもメリットである。 |
| 岡村座長 | この一年間で5校でそろえていく中で苦勞したことはあるか。 |
| 榎木委員 | 学校教育目標を決めるのに半年かかった。校長先生方の合意を得るには時間がかかるが、議論することで納得でき、うまく進めることができている。 |
| 岡村座長 | 上位目標を作ることは大切なことである。私も期待したい。 |
| 前田委員 | 城南中学校は今年が一貫校、昨年度がモデル校だった。モデル校になる前は校長・教頭・教務で目標を決めていた。現在、道徳と算数・数学をメインにして進めている。まず、9年間を通して関連のある単元を結び付けた。命に関わる部分は各学校重点目標にしていたため、命に関わる教材をすべて結び付けた。道徳については取りこぼしがないようにしている。 地域の方から「小中一貫校とは？」と質問された。小中一貫校を地域が理解していないため、小中一貫校について説明している。小中学校の先生や児童生徒が交流することを地域の方は望んでいる。現場の可能なこととは違っている部分がある。人と人が交流することが一番だと思う。学校では縦割りで集会活動を行うと一気に異学年が仲良くなる。これと同じように中学生と小学生が |

| | |
|------|--|
| 岡村座長 | <p>仲良くなると思う。人間関係ができると教え合い活動がうまくいく。子どもたちは経験しないとわからない部分があるので経験していくことが大切である。</p> <p>地域の方は小中一貫校の説明を聞いて、がっかりされるか。</p> |
| 前田委員 | <p>やっぱり難しいのかという反応である。しかし、どこかに期待を持っておられる。</p> |
| 郷委員 | <p>芳野小学校・中学校は小規模な学校であるため、芳野ならではの部分があるかもしれない。芳野中学校区では月に一回、管理職の連携の日がある。それを通じて管理職同士が仲良くなるのが大切だと感じた。管理職同士がお互いに自由に意見が言える状況であれば、小学校と中学校の教育が同じベクトルになる。現在、小中学校の教育目標はほぼ同じである。また、芳野小中学校は英語と音楽の乗り入れ授業を行っている。先生方の連携を深めるために研究部を連携させ、研究テーマを同じにした。保護者や児童生徒、職員にアンケートで子どもにつけたい力等を整理し、主体的な力をつけるために研究を推進している。小中連携の成果を実感できるものでないと継続できないと思う。昔から合同運動会を行っている。お互いに支えあう取組として、中学校1・2年生が小学校3・4年生に算数を教えることを夏休み前に2日間行っている。非常に子どもたちも喜んでいる。先生方も子どもの生き生きとした姿を見ることができる。芳野フルーツの森を作り、ブルーベリーを学年ごとに植えた。その後どうするかについては子どもたちに任せている。こうなさいと言うと負担になる。主体的に行動してもらいたいという気持ちがある。</p> |
| 岡村座長 | <p>地区ならではの強みが出ている。</p> |
| 西川委員 | <p>一貫した教育をどこで狙うのかを常に3校の校長で話をしている。小中一貫校だからこんな活動をしなければならぬではなく、狙った先にその活動があれば行うということで進めている。江原中校区では自尊感情を9年間かけて育てるため、人権学習カリキュラムを作成し、人権学習カリキュラムマネジメントを基盤とした小中一貫教育を目指している。小学校同士の交流では、本荘小の広い運動場を工事で運動場が使用できない春竹小の児童が運動会の練習場として使用するなど、できることから取り組んでいる。また、3校のなかよし学級プログラムとして特別支援学級の子どもたちが交流した。先生方も小中学校の枠を取り払って子どもたちの指導をした。小学校の子どもと中学校の先生、中学校の子どもと小学校の先生の活動ができたかと考えている。だからこそ人権学習のカリキュラムが基盤にあることが大切である。小中学校それぞれの先生方が授業で何を狙っているのかを共通理解し、授業研究会や地区別人権教育研修会の授業研究会に参加している。本荘小学校では1月にカリキュラムマネジメントの研究発表会を行う予定である。3校の校長会、教頭会、人権教育主任会を毎月行っている。校長会では子ども一人一人の情報を共有できるようにしている。小中一貫教育は持続可能なものでなければならない。子どもたちのための取組を学校に残していくことが大切である。楽しく、無理のない取組を続けていきたい。</p> |
| 岡村座長 | <p>持続可能な形で、学校文化として残していくということがキーワードになっていくだろう。</p> |
| 川上委員 | <p>桜木中学校区では子どもたちの実態から、小学校1年生から中学校3年生の</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>発達段階に応じた挨拶、学力向上のために授業でのめあての提示と振り返りを行うという2つの取組を行っている。無理なく続けることが大切である。幼小中連携の日には月1回校長会があるため校長部会を設けずに教頭部会を設けている。教頭は学校の窓口になっているので、教頭同士の交流が大切だと考えた。6年生が中学校に行って体験入学をするが、生徒会の生徒が小学校の児童の素朴な質問に対して、安心させるように返してくれるため、不安なく小学校に帰ってきていた。交流は1回でもやらないよりは効果がある。桜木校区は地域の「子どものために」という気持ちが強く協力的である。「桜木校区子ども育む会」というものがあり、地域の方々と校長、教頭、生徒指導で子どものためにできることを話し合っている。乗り入れ授業はできていないが、4・5・6年生で交換授業を行っている。中学校では教科によって先生が変わり、教え方も使う道具も違うため、子どもたちには今のうちに経験しておく中学校に入学しても困らないと話している。中学校のことを話すことが大切である。</p> |
| 岡村座長 | <p>Cグループだから難しいことはあるか。</p> |
| 川上委員 | <p>校長同士や教頭同士、教務同士など、個別には連携が取れている。しかし、先生方同士は年に3回の連携の日のみで、また、小学校は教科が決まっていないので、教科の連携が難しいところである。</p> |
| 村上委員 | <p>今年度から小中一貫校になるため、昨年度から自治会長さん方に小中一貫校になることを伝えていた。地域の方々は小中一貫校になることで学校がなくなるのではないかと、校長が一人になるのではないかとという不安を持っていた。形としては何も変わらないことを説明し、安心された。</p> <p>小中一貫教育目標を昨年度見直した。地域を愛する子どもを育てたい、15の春の最終ゴールを目指して社会で自立できるようにという思いから目標を決定した。昨年度は9年間のカリキュラムができていたが、保護者の入れ替わりや教職員の異動もあるため、イメージしやすいように小中一貫教育のイメージ図や構想図を作成した。取組についてどのように具現化していくか各部で進めてきた。水防訓練での引き渡し訓練を小中学校合同で行った。平成30年度に保育園・小中学校が挨拶や人権学習などに取り組む植木北中学校区のきらめきプランを作成した。今年度再作成している。植木北中学校区の子どもを幼児期から中学校3年生までどのように育てていくかをまとめた。プール再編モデル事業で近隣の民間施設を利用している。2つの小学校が同学年で一緒に活動している。5年生の集団宿泊教室は前から一緒に活動していた。一緒にできる行事や取組は小中一貫校として活動していく。保小中連携の日にはお互いに授業を参観し、その時のテーマで部会を行っている。乗り入れ授業は学校間の距離があるため、なかなか進んでいない。今年度は中学校から技術の先生に来ていただき、メディア教育をしていただく予定である。小学校の特別支援学級の先生が進路指導の経験が豊富なため、中学校の特別支援学級で進路指導をする予定である。できるところから少しでも乗り入れ授業を進めていきたい。以前勤務した芳野中学校で一貫校の良さを経験した。Bグループだからできることを考えながらやっている。月に1回、3校の校長会を行っている。管理職の意思の疎通ができており、つながりを深めている。負担感が強いものはなくなっていく。無理のない取組を大切にしていきたい。年度ごとにテーマを決めて取り組んでいきたい。</p> |
| 安井委員 | <p>富合中学校区は小中のつながりとしての取組が7年目になる。令和3年度末には5年経過するため、令和3年度の3学期から、内容を見直し始めた。富合</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>中学校区の地域性をどう生かしていくのかを考えた。地域の方々は協力的である。地域には宝が眠っており、その宝を生かすために昨年度から校内研修のテーマを2校でそろえた。総合的な学習の時間を核として、富合町を好きと思える子どもたちを増やし、何が好きなのかを語るができる子どもたちを目指した。9年間のカリキュラムを作成し、取り組み始めた。オンラインや集合で研修をした。中学校の学習内容が見えてくると小学校の学習に生かせたり、つなげられたりすることに気づいた。小学校5・6年と中学生で総合的な学習の時間の発表会を行った。中学生の姿を見たことが宝になった。区役所の方々がとても協力的で応援してくれた。学校評議員会でプレゼンを作って発表し、数年ぶりに富合教育懇話会の中で、地域でどんな子どもたちを育てていくのかを考えていただいた。そこでもプレゼンで発表した。子どもたちがやりたいことを叶えようとする職員数が足りない。地域の方を巻き込んでいきたい。児童生徒支援についての小中連携を行っている。具体的には不登校の小学生・中学生の兄弟姉妹がいた場合に小中学校の先生が今後の対応について協議し、一緒に家庭訪問するなど、連携を密にすることができた。小中学校間で毎日のように情報共有することができ、連携を進めることができた。夏休みの前に小学校6年生に対して、中学校の教頭先生にSNSについて話をしてもらった。「来年の今はみんな中学校に来ているよ」という言葉が印象的だった。子どもが中学生になっている姿が見え、これが小中一貫教育だと感じた。課題は小学校の人数が急激に増え、中学校からの乗り入れ授業の実施が難しい状況になっている。どうするか考えなければならない。</p> |
| 岡村座長 | <p>総合的な学習の時間の研修会に参加したが、先生方の小中一貫校としての意識の強さを感じた。</p> |
| 高梨委員 | <p>天明が義務教育学校になることはありがたいが、一緒になることで子どもの逃げ道がなくなるのではないかと心配しておられた方がいた。</p> |
| 榎木委員 | <p>義務教育学校にはメリットとデメリットがある。少人数だから逃げ場がないというところもある。かえって人数が多い方が逃げ場が多くなると思う。状況によっても違う。総合的に見てメリットが多くなるようにする。</p> |
| 岡村座長 | <p>学校において、すべての人がすべての場面で満足することは難しい。このようなことは保護者の方からの相談として十分に考えられる。学校はその都度考えていくことになる。学校が大きくなれば、子どもがあちこちに居場所を作ることになる。また、一つの小学校にいる先生の数が多くなるので、自分と相性の良い先生と出会う確率が高くなるかもしれない。友達が増える分より安心するコミュニティーを作れるかもしれない。保護者への説明も引き続き大切になる。地域から学校がなくなることを心配されている地域の方もいる。色々な形で地域と連携していただきたい。</p> |
| 中釜委員 | <p>小中学校がかなり連携していることを感じた。小学生の子どもが中学校に上がるときに不安があると思うので、事前に小学校のうちから中学校についてわかれば不安が軽くなると思う。私には中学2年生と小学3年生の子どもがいるが、中学生の子どもが中学校に上がったときは小学校の時と先生の雰囲気が違うと言っていた。そのあたりの不安を小学校のうちから中学校の情報を与えておくとスムーズに中学校生活に入れると思う。二岡中学校区は小学校で行っている活動を中学校でも引き続き行っているため、小中一貫校のメリットであると感じている。地域も含めて交流が進んでいけばよい。</p> |

| | |
|------|--|
| 岡村座長 | <p>皆様から様々な情報をいただいた。うまくいっている部分やそうでない部分があると思うが、その中でどのような工夫をするのかが必要である。今日の話であれば、継続性をどう考えていくか、地域の特性をどう生かしていくか。なかなか小中一貫連携は全校区の足並みがそろわないと思う。それぞれの学校でできることを模索していただき、それが先生方の過負担にならないよう様々な形で子どもの教育を推進していただきたい。今日は情報収集や情報共有ということであったので、貴重な先生方のご意見をいただき感謝する。</p> <p>ここで、議事進行を終えて、事務局にお渡しする。</p> |
|------|--|

6 事務連絡

7 閉会